

地域に学ぶ

トライやる・ウィーク

地域のみなさんの協力を得ながら、自立心や忍耐力、社会性、将来に向けての生きる力を身につけることを目的に実施するトライやる・ウィーク。

朝来市立の4つの中学校の2年生は6月6日から10日まで、各事業所に通いながらいろいろな仕事を体験しました。一週間の体験を終えての生徒の感想を紹介します。

和田山中学校 小山有貴

一週間のトライやる・ウィークが終わりました。トライやる・ウィークが始まる前は仕事がちゃんとできるかなとすごく不安でした。でも、頑張つて積極的にしたいと思つていたので、事業所に行つてから自分から進んで仕事をするように頑張りました。



私は竹田保育所に行つていたので、子どもと一緒に遊んだり、世話をいろいろしました。小さい子の面どうを見るのは思つていた以上に大変です。服一枚着せるのも、トイレに行かせるのも、すごく苦労しました。でも、子どもはみんなすごくかわいくて、子どもの笑顔を見ると、もつと頑張ろうという気持ちになれます。



この五日間働いただけでこんなに疲れるなんて、保育所の先生や毎日働いている大人はもつともつと大変なんだろうなと思いました。保育所の先生はお金のためだけに働いているんじゃないかと、すごく自分の仕事に生きがいを持ってやつていました。

私はまだ将来何になるか決まつていません。でも、自分が生きがいを感じられる仕事につきたいなとトライやる・ウィークを終えて思いました。これから学校生活で、トライやるで学んだことを生かせるらしいなと思います。

生野中学校 上田真一

JR生野駅での仕事では、切符の販売・受け取りはとても難しかったです。切符を売ったり、受け取つたりすること自体はあまり難しくはなかったけど、その仕事をやる時にあいさつが全然できなくて、初日に指導ボランティアの方から「声が小さい。もつと声を出さないとだめや」と厳しい注意を受けました。

でも、二日目は心のどこかで注意していたのか、自然と大きな声であいさつができるようになり、今度は「はつぎあいさつできるようになったなあ」と言ってもらいました。また、大きな声で進んであいさつできるようになるにつれて、お客様から「どうもありがとう」「ご苦労様」「がんばつて」など、声をかけてもらえるようになりました。それがプラスになり、日がたつごとに、大きな声であいさつができるようになりました。四日目には自信を持ってあいさつができるようになりました。

